

第4回 南の星小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 2023年2月17日（金）14時30分から16時まで
- 2 開催場所 南の星小学校 会議室
- 3 出席委員 小林睦夫、原川 翼、内山いずみ、
YAMAMOTO IRFAN、佐藤政美、澤井友美
- 4 欠席委員 鈴木美佐男、井口裕士、GOMES ALINE、
- 5 オブザーバー 角屋善紀（五島協働センター センター長）
- 6 学校支援コーディネーター 佐藤政美、澤井友美
- 7 学校 須藤邦夫（校長）、長坂明典（教頭）、林裕一（CS担当職員）
井上美和（CSディレクター）
- 8 教育委員会 鈴木陽子（教育総務課）
- 9 傍聴者 なし
- 10 会議録作成者 CSディレクター 井上美和

11 協議事項

（1）議長の選出について

（2）熟議

- ①学校関係者評価について（教務主任）
- ②来年度の学校運営の基本方針の説明（校長）
- ③学校運営協議会の自己評価について（会長）
- ④その他

※夢育やらまいかCS加算分の報告（教頭）

※いじめ防止等のための基本的な方針についての報告（教務主任）

（1）議長の選出について

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、小林委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

（2）熟議

①学校関係者評価について

教務主任から、別紙資料に基づき、本年度の学校運営の成果及び課題について説明があった。委員より意見を求めた。

- ・資料より、4つのプランのうち、「学び合う子」、「素直な子」、「負けない子」プランは令和4年と記載されているが、最後の「助け合う子」のプランだけ、令和

5年度と記載されている。これも令和4年度のことか？（オブザーバー角屋様）
→令和4年度のことです。（校長）

- ・それぞれのプランについて、委員の皆さんには様々な意見を出して熟議していただきたい。分からない言葉や改善策を後押しする意見などでもよい。（教育総務課鈴木様）

※それぞれのプランについて、委員より意見を求めた。

○「学び合う子」プラン

- ・子どもの返却されたテストを見て、文章をちゃんと理解できていないことがあるなと感じている。文章を理解するための取り組みを繰り返し行うことが必要だと思う。学校でもやっていただきたいし、家庭でもやっていきたい。（佐藤委員）
- ・学校には図書館など活字を読む機会がたくさん持てる場所がある。子どもが興味をもてる本を今まで以上に増やして欲しい。（小林委員）

※今の子供たちは、テストが終わるギリギリまで時間を使って、何か答えを書こうとはしない子が多い。テストに向かう意欲など、テストをやる前にもっと取り組むことがあるのではないか。（校長）

- ・「MIM」とはどういう意味ですか？（小林委員）

→日本語の基礎的な習得を促すもの。外国人の中には、拗音や助詞や使えない人も多い。日本語の何が分からないのかを良く見極め改善を促し、トレーニングしていくことが必要。（教務より）

- ・「ピアサポート」とはどういう意味ですか？

→ピアとは、仲間を意味している。仲間同士で支えあうということ。大人が間に入って物事を解決するのではなく、子ども同士で解決できる力を育てていくことが、人との関わりあいを充実させるためには必要。（教務）

○「素直な子」プラン

- ・挨拶について・・・この学校の児童は、自分から挨拶ができる子が多い。また、とても人なつっこくて、素直な子が多い。地域の人にもそうしているのかは分からないが、学校に入るとそのような子が多いように感じる。（校長）
- ・私が協働センターに赴任して5年になる。赴任当時はこちらから挨拶しても返事がないことも多くあったが、最近は、自分から挨拶してくれる子が多い。おかげでとても気持ちのいい関係を築けているように感じている。（オブザーバー角屋様）
- ・廊下歩行について・・・廊下を走らないことは日頃から呼びかけている。空間の広さからつい走ってしまうこともあるが、廊下が広い割には歩いている児童も比較

的多いと感じている。事故や怪我のないように、今後も引き続き注意喚起を促していく。(校長より)

- ・子どもと先生が関わる時間がもっととれればよいと感じている。(校長より)
- ・自分の子どもは、コロナ禍で入学後1か月学校に行けない時期があったが、学校が楽しいし、毎日行きたいと言っている。子どもをこういう気持ちにしてくれた学校に感謝している。(小林委員)

○「負けない子」プラン

- ・学校でドッジボールなどを行ったり、節分(2月3日)に先生が鬼になって子どもを追いかけるといった、子どもが楽しんで走る機会をもつことは、とてもよいと思う。
- ・これからもこのような機会をぜひ続けて欲しい。(佐藤委員)
- ・学校内で、節分の日に児童から「今日鬼が出るから気をつけて」と話し掛けてくれた。子どもにとってもとても楽しみなイベントになっていると感じている(澤井委員)
- ・児童の視力の状況に改善が見られていたと記載があるが、一方で健康診断の評価には、改善が見られた視力について再び視力低下が見られたとあり、記載に矛盾が見られるのではないか?(オブザーバー角屋様)
- ・原因は分かりづらい。良くなっているように思われたが、そうではなかった。スマホやタブレットを家庭で使用し、学校ではタブレットを使用する機会もある。そういったことは一因としてあるのかも?(教務主任)
- ・外遊びが多いと視力が向上するという研究もある。学校内での注意喚起だけでなく、家庭にも保健だより等で注意喚起を促している。(教頭)
- ・学校のタブレットは「学習の補助道具」であり、遊びに使うものではない。そばにあると子どもは自由に好きに使ってしまい、大人の思うようには使ってくれない。子ども達には正しい使い方を周知してから、渡す必要がある。(校長)
- ・前の授業で使っていたら、次の授業ではタブレットの使用は控えるようにしている。先生同士使い方を考えながら、授業に取り入れている。(教務主任)

○「助け合う子」プラン

- ・ソーシャルスキルトレーニング(SST)とは?(小林委員)
- 人と人とが関係を築く為のトレーニング。スリーヒントクイズなど、ゲーム感覚でコミュニケーションを養う。(教務主任)
- ・リーダー性のある児童が少ないのはなぜか?(小林委員)
 - ・自分の気持ちを言葉で伝えられない、創意工夫が乏しい、現実を知っている、相手の気持ちを読めないことを自分自身気付いている。今の子どもは、その時代に

合った成長をしている。それが悪いこととは必ずしもいえない。リーダー性が強いことがよいこととは限らない。今の世の中にあったリーダー性とはどんな子なのか？考えていかないといけない。（校長より）

- ・ 創意工夫の少なさは、自分の子を見ても思う。失敗して学ぶ機会が少ない。

（小林委員）

- ・ 子どもが分からないことを自分に聞いてきた。調べていると、子ども自身がスマホの検索機能で先に調べてしまった。母が調べ終わるのは待ってくれない。

（澤井委員）

- ・ 友達関係といった実体験を伴うこと、発表会など普段の生活では味わえないことなどは、調べて分かることではない。子どもが何を欲しているのか、学校に取り入れていかななくてはならない。（校長より）

- ・ 異校種交流とは？（原川委員）

→学校単位での交流のこと。特別支援学校の5年生と小学校の5年生の交流などを実施している。コロナ禍もあり控えていたが、最近復活してきた。（校長より）

②来年度の学校運営の基本方針の説明

校長から、別紙資料の学校経営構想について説明があった。

③学校運営協議会の自己評価について

原川会長より、別紙資料の自己評価表について説明があった。

- ・ 全体を通して、いい熟議ができたのではないかと思う。（原川会長）

→スタート時は不安もあったが、協議会委員の方々が学校を良くしていこうと考えてくださっていることがよく伝わるいい熟議だったと思う。（校長より）

④その他

※夢育やらまいかCS加算分の報告

主に「地域との学習の充実」（さつまいもの栽培活動（3年生））、「キャリア教育の充実」（オリンピックに出た方を講師に呼ぶ）の2つについての費用に使った、と教頭より報告があった。

※いじめ防止等のための基本的な方針についての報告

市より方針の改定があったので学校でも改定することとなったと、教務主任より報告があった。

※熟議終了

（3）連絡事項

- ・ 令和5年度第1回学校運営協議会開催日時の確認
司会より、次回会議は令和5年5月12日（金）14時30分～16時、南の星小学校会議室で開催する旨の報告があった。

- ・ 他校の学校運営協議会を傍聴してきたことについての報告
原川会長より、佐藤委員と江南中の学校運営協議会を傍聴したことについて、以下の報告があった。
 - ・ 生徒数の減少に対して強い危機感を持っている。生徒数確保を目的に、学校としても自転車通学範囲の拡大など様々な策を講じている。委員からも様々な意見がでており、充実した熟議となっているなど感じた。
 - ・ 学校の魅力を伝える啓発活動は今後より重要となってくる。異校種交流も含め、学校運営協議会として今後何か交流などを図っていければと考えている。